

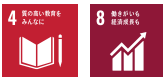
テーマ
10

教科とのかかわり

国語



SDGsに関連した
体験プログラム



青森の偉人を学ぶ

学習のねらいとその効果

- ① 太宰の故郷で、その文学を育んだ津軽の風土と生家にふれ、大切なものを探し続けた小説「津軽」の「私」と同じように、生きることについて考えを深める。
- ② 作品を発表するだけでなく、全国組織を作り、俳句雑誌まで創刊した青森の高校生 寺山修司。時代を先駆けた寺山の、その歩みをたどり、表現することについて考えるきっかけとする。
- ③ 作者の心情や意図と創造的な工夫などを理解し、作品に対する見方を深める。

青森の偉人が
伝えたかったことは何だろうか？



ヒバの中心に置かれた太宰治記念館「斜陽館」

太宰治記念館「斜陽館」1階の板の間

故郷・金木町から 太宰文学をひも解く

太宰治は1909年6月19日、大地主・津島源右衛門の第十子六男、本名・津島修治として誕生し、13歳まで五所川原市金木町に現存する青森ヒバを贅沢に使った生家で暮らしました。大地主ゆえに周囲とはかけ離れた環境の中で育ちました。太宰は第一創作集『晩年』に収録されている「思ひ出」や数々の作品の中で、生家や生家の人々について語っています。

1944年、『津軽』の執筆を依頼された太宰は十数年ぶりに故郷に戻り、津軽を旅することで、自分を見つめ直すことができました。自らの生い立ちを語り「忘れ得ぬ人々」との再会の様子が描かれています。太宰にとって故郷とは何か。家族とは何なのか。今でも威風を放つ太宰治記念館と金木町の風土に触れることで、太宰文学の根底にあるものを感じるとともに、生きることについて考えます。他の主な代表作として「走れメロス」「人間失格」などがあげられます。

「表現の宇宙」が広がる テラヤマ・ワールド

寺山修司の表現の場は、短歌・俳句・詩・演劇・映画・写真・競馬・評論・エッセイなど多岐に渡り、その前衛的な表現は海外からも高い評価を得ています。多彩なジャンルで生み出された多くの作品は、読み継がれ、受け継がれ、上演し続けられ、今日に至っています。主な作品としては、「家出のすすめ」「書を捨てよ、町へ出よう」があげられます。

1945年7月の青森大空襲からの3年半、寺山修司は父親の実家がある三沢駅前(旧古間木駅)で過ごしました。多感な少年時代に刻まれた記憶は、後のテラヤマ芸術の原風景となり、三沢市は前衛芸術家として時代を駆け抜けた彼の故郷となったのです。その地に建てられた記念館には、作品にまつわる資料や愛蔵品が収蔵されています。常設展示は「寺山修司を探せ!」がコンセプト。まずは彼の表現の世界観を自分自身で体感してみましょう。

作品にあふれる 「人間・棟方志功」の魅力

ゴッホの『ひまわり』に大きな衝撃を受け、画家を志して上京した棟方志功。帝国美術院展覧会で油絵が入選を果たした頃には、木版画に惹かれていたといわれます。版画に独自の世界を見出し、創作活動に打ち込んだ棟方志功は、「板の命を彫り起こす、板による表現」として、自らの作品を版画ではなく「板画」と呼びました。

棟方志功のエネルギーと精神性にあふれた作品は、やがて国内外で高い評価を受けるようになります。棟方志功作品の底流にあるのは「あもりの風土」や「あもりの魂」。郷土を愛する棟方志功の作品には、自らを生み、育んだ豊かな自然や文化を持つ青森が、原風景として投影されています。芸術家の作品や創作姿勢、人生に触れることは、自らの生き方について考えるきっかけになります。

体験プランの一例

「青森県近代文学館」で青森ゆかりの作家とその作品について学んだ後、「太宰治記念館 斜陽館」や「寺山修司記念館」で、それぞれの作家の生涯と作品に触れることで、さらに理解を深めます。



こちらもおススメ!

小説「津軽」の像記念館 (中泊町)

幼い頃の太宰治に文字を教え、本を読んであげた子守りのタケ。太宰治は作品の中で「私の一生は、その人によって確定されたといつてもいいかも知れない」と書いています。



青森県近代文学館

太宰治、寺山修司、秋田雨雀、三浦哲郎など県内出身作家13人の作品と生涯を学ぶ

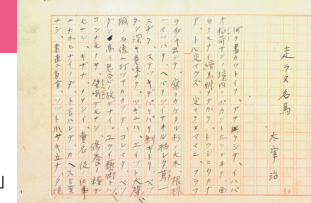
- ※希望に応じて解説員が詳しく説明
- ※近代文学ガイドコーナーで映像観賞も可能



太宰治記念館 「斜陽館」

太宰治の生家と蔵を活用した展示室を鑑賞

太宰治直筆原稿「走れメロス」
五所川原市/提供



寺山修司記念館

寺山の舞台を再現した展示室を鑑賞



おもな体験内容とお問い合わせ先、アクセスなど詳細情報

青森県近代文学館

小中高

お問合せ先 ☎017-739-2575

住所/〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-7 青森県立図書館2階
アクセス/JR「青森駅」より青森市営バス「社会教育センター前」下車
徒歩約1分
開館時間/9:00~17:00 入館料/無料

展示室見学 (30~60分)

明治以降の文学に影響を与えた青森県を代表する作家13人を中心に紹介した常設展示のほか、年数回テーマ別の企画展を実施しています。

| 受入期間 | 体験可能時間 | 体験人数 | 料金 |
|------|------------|------|----|
| 通年 | 9:00~17:00 | ※1 | 無料 |

※1 事前にご相談ください。



太宰治記念館「斜陽館」

小中高

お問合せ先 ☎0173-53-2020

住所/〒037-0202 五所川原市金木町朝日山412-1
アクセス/津軽鉄道「金木駅」より徒歩約7分
開館時間/通年9:00~17:00
※入館は開館の30分前まで
入館料/小・中学生250(団体200)円、高校生400(団体300)円
※団体は20名以上

館内見学+教育プログラム (30~60分)

太宰が幼少期を過ごした生家は明治時代の豪邸です。その館内各所の説明パネルや展示物から答えを導くクイズです。楽しみながら太宰の生活や作品に触れる教育プログラムとなっております。
●体験人数/要相談



寺山修司記念館

小中高

お問合せ先 ☎0176-59-3434

住所/〒033-0022 三沢市大字三沢字津代平116-2955
アクセス/青い森鉄道「三沢駅」より車で約20分、
または八戸市街より車で約45分
開館時間/9:00~17:00 ※入館は開館の30分前まで
入館料/小・中学生60円 高校生110円※小・中学生は土曜日無料

館内見学 (60分)

「職業・寺山修司」と語った寺山修司の俳句・短歌・詩・映画・演劇・作詞・エッセイ・写真などの多彩な活動を、机や舞台を使ったユニークな展示で総合的に紹介する記念館。小学4年から3年半、多感な少年時代を過ごし、創作の原点ともいわれる三沢市に1997年開館。年2回入れ替わる企画展も合わせてご案内します。

| 受入期間 | 体験可能時間 | 体験人数 | 料金 |
|------|------------|------|-----|
| 通年 | 9:00~17:00 | 要相談 | 入館料 |

こちらもおススメ!

寺山修司記念館の遊歩道

記念館の外には顕彰文学碑まで続く遊歩道があり、道順を示す木柱には寺山の短歌が刻まれています。歌碑の前から小田内沼が一望でき、6月から7月下旬はスレンが見頃。